



新型コロナウイルスが世界中に広まり、世の中は一変しました。これまで経験したことのないことが起こり、人間は右往左往、思い描く未来への信頼がいかに脆かったか、「自然」によって思い知らされたような期間を過ごしましたね。でも実は疫病の流行というのは、現在に始まったことではありません。昔から人間は疫病と共に生きてきたとも言えます。真宗中興の祖、蓮如上人が生きられた時代にも疫病が日本中で流行り、たくさんの方が亡くなりました。そんな現状を憂いて読まれた「御文」の一部が、左の文章です。詳しい内容は、後記の「真宗入門」にて解説しています。

※疫病(えきれい)・・・伝染病のこと

えきれい
疫病によりて

はじめて死するにはあらず

2020.7

第16号

正法寺発行

お寺で始める新しい習慣

暖かくなったので、

おそうじの日
再開しています！！



#templemorning



これからの「おそうじの日」日程

7/26、8/30、9/27、

10/25、11/29、12/27

※全て日曜日で9時から1時間程度です

「食前・食後のことば」を知っていますか？

詳細は3ページ目に紹介しています！



【食前のことば】
み光のもとわれ今幸いに
この浄き食をうく
いただきます

【食後のことば】
われ今この浄き食を
終わりに
心ゆたかに力身にみつ
ごちそうさまでした

たくさんの方に
ご参加いただいています。
ありがとうございます！





行いがわたしを導く時間 始 動！！



新しい学びの時間、しんらん聖人ご命日のつどい「行いがわたしを導く時間」がスタートしました。新型コロナウイルスの影響で、4月は1名の参加でしたが、5月は13名参加があり、盛況な会となりました。今後毎月28日の開催です。初めての方も、老若男女問わずご参加いただけたらと思います！

行いが わたしを 導く時間

しんらん聖人ご命日のつどい

どなたでも参加出来ます

通年
開催中
1回500円

SHINSHUOTANIJA-SENZENZAN-SHODOJI

報恩の心に学ぶ

自分との向き合い方



時間：13:30～15:30

4月 安心して仏事にのぞもう 「作法を学んでみよう」

4月はコロナウイルスの影響で参加者は1名。寺族の7名と共に、本堂への入堂・退堂の方法、という基本的方法、という基本的なところから学

びました。他にも、綺麗な合掌の仕方・焼香の作法・お経本の持ち方・キンの打ち方や撥さばき・正座からの立ち方などでも実際に行いながら、学んでいきました。来年も同じ内容を考えています。

これからの 「行いがわたしを導く時間」 スケジュール

日 程	テ ー マ
7月28日(火)	仏具を磨いてみよう お飾りを知る① そろそろ仏具、磨きませんか？
9月28日(月)	「親鸞聖人」の絵を楽しもう アートを通して聖人のご生涯を知ろう
10月28日(水)	念珠を作ってみよう 自分だけの念珠ってステキ！
11月28日(土)	花をいけてみよう お飾りを知る② お花をいけるちょっとしたコツ
12月5日(土) ～8日(火)	報恩講法要に行こう！

報恩講以外、13:30～15:30です。
基本的に、正法寺の本堂にて行います。
(参加費500円)

ありがとソングも
歌っています！

講座の土台になっている「報恩講」の「恩に報いる」気持ちを身体で感じていく試みとして、「ありがとソング」（感謝やおかげ様の心を感じる曲）を歌ったり、聴いたりしています。次のような曲です。皆さんはどんな曲を思い浮かべますか？

○涙そうそう(夏川りみ)

○言葉にできない(小田和正)

○道化師のソネット(さだまさし)

○さよならの向う側(山口百恵)

○ジュピター(平原綾香)

5月

正法寺の歴史を知ろう 「住職による歴史講和」

① 本堂の阿弥陀さんについて。真宗の寺院は、阿弥陀如来を中心にする場所ということを確認しました。

② 大村の歴史と仏教

古くから大村には山村を中心にとくさんのお寺があったことを、地図や現在の地名などと照らし合わせながら説明。その後、大村純忠がキリスト教に改宗したことで大村全ての

寺院が無くなります。江戸時代に再び寺院が建立されています。正法寺もその一つです。現在は街道沿い中心にお寺があることも確認しました。

③ 正法寺のすぐそばにある公園が、かつてお寺であったことを示す立て看板を実際に歩いて行って見学しました。

③ 正法寺に言い伝わって残っている歴史資料を見ました。

正法寺の歴史はとても興味深く、大村のキリストと仏教の流れも勉強になった。

郡地区にあった寺を確認

正法寺のすぐ側「辻田公園」もかつてはお寺でした。
設置されている看板に記されています!!



とても良い会でした。
正法寺中心に布教がされた過去はすごいですね。
どのようにしたのか知りたかった。



食前・食後のことば、 言ってみましょう!

表紙に書いた「食前・食後のことば」について、
今年2月2日、ご門徒の方の投稿が長崎新聞に掲載されました。とても素敵な文章だったので、
こちらにも転載いたします。みなさんも、食前
食後のことばをゆつくりと言ってみませんか?

今年、お寺の行事の世話役である

「講頭」を受け持つ順番が11年

ぶりに巡ってきた。輪番制で1年

交代。夫が1月12日の講頭初会、

そして私が同26日の婦人部(洗心

会)総会に出席した。2人とも車

の運転をしなくなったので、タク

シーや路線バスと徒歩で行ったた

め時間や経費はかかった。

わが家は、夫の両親の位牌を頂

き仏間を作った折、大村市内の浄

土真宗のお寺(正法寺)のお世話に

なることになり、門徒に加わった。

11年前の会の折、

資料に添えられて

いた「食前のこと

ば・食後のことば」



に吸い寄せられ、

食卓の壁に貼り、

よく称えて習慣化

した。幼かった孫

がわが家に遊びに

来たとき、うれしそうに私の顔を

見てそれをまねた。その後、いつ

の間にか紙も黄ばみ、自宅をリフォームした際に剥がしてしまい、次第

に忘れられていた。しかし、今年

のお役目が巡って見たことで再び

クローズアップ。夫婦2人の食卓

は寂しくなったが、食前と食後の

称えにより食事への感謝の気持ち

が湧き、当たり前前の3食に一呼吸

を置く大切な作法となった。

浅田恵子(坂口)



坊守の

仏^{ぶつ}ツ寺日記

お寺で思う
いろんなこと
語ります!!



もう一度、「南無阿弥陀仏」を！

以前紹介した、土井善晴著「一汁一菜でよいという提案」のことを再び考えています。そして、この本は誤解され易い本だと気づきました。「一汁一菜でよいという提案」という名前だけ見てしまうと、「粗食のススメね」、とだけ思われる可能性があります。

勘違いされる原因に、一汁一菜という言葉が「単純すぎる・明快すぎる」というのがあるのではないかと
思います。しかもこの本は、最初の方で結論から書かれています。最も大事で伝えたいことを、最初に言われているのです。

「毎日、毎食、一汁一菜でやろうと決めてください。考えることはいらなのです。(省略)「それでいいの?」とおそらく皆さんは疑われるでしょうが、それでいいのです。わたしたちは、ずっとこのうした食事をしてきたのです。

(「一汁一菜でよいという提案」より)

大事なことを最初に言う?これ、どこかで聞いたことがあります。親鸞聖人の「正信偈」です。親鸞聖人が書かれた「うた」であるところの「正信偈」

その冒頭は、

「帰命無量寿如来 南無不可思議光」
きみようむりやうじゆにやうらい なむふかしぎこう

という文句で始まります。ラブレターだとするなら、いきなり「あなたが好きです」と結論から書くようなもので、この二行にはすべてが入っています。この二行は「南無阿弥陀仏」という言葉と同等だから、「ナムアマミダブツ」でよいという提案でもあるでしょう。「それでいいの?」とおそらく皆さんは疑われるでしょう?というところも人間の「疑」という問題において近いのです。どうしても人間は疑います。「南無阿弥陀仏だけでよい」なんてすぐには信じられないのが人間です。

疑いの心



土井先生の本に戻ると、「一汁一菜でよい」とすぐには思えないのが人間です。いや、そうではないよ。わたしの経験と、身体で受け取ってきた感覚でそれを証明できます。というのが土井先生です。先生は「よいものは軽くてシンプル」ということをよく仰います。だからこそ述べられる結論はいたって明快なのです。ただし、そのあとは深く広い世界が広がっている本です。文章も論理的なものが続くので、一度読むだけで直ぐ全ては理解できません。

一方、たくさんさんの経典を読み、そこからの解釈を伝えてくださった方が親鸞聖人です。その真実を「言葉」だけで理解していくのはなかなか困難なことです。でも、本当はまず「南無阿弥陀仏」と称えてみるだけでいいでしょう。まず自分が。一人で。同じように「一汁一菜」を作ってみればいいのです。う。まず自分が。一人で。でもできないのです。「疑い」があるから...

土井先生は言われます。「今は何でも専門家でなければその道のことをやってはいけない、話してはいけないようになっていきます。」と。専門家に感動し、自分もやってみよう、そこでの経験を表現してみよう、でよいのです。先生が著書で伝えているのは、身体感覚を信じよ。ということだとも思います。だから土井先生は四の五の言わずに家庭料理作りに徹してきた「お母さん」への信頼が深いのです。まず作ってみる。まず、念仏してみる。そして、そこから深く広がっていく世界の深さを、訪ねてみませんか?

休校中に次男が味噌汁を作ってくれました!!



これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には
仏教由来の言葉が実はたくさん
そんな言葉を紹介します 今回の言葉は、

「ありがとう」



「ありがとう」普段なにげなく使っている、お礼の言葉。これも語源は「有難し」という仏教語である。出典は『法句経（ほつくきょう）』の、「ひとの生をうくるはかたく、死すべきものの、生命あるもありがたし」である、と言われている。人と生まれた生命の驚きを教える教説である。だから「有り難し」とは、その仏説を聞き、人の生命の尊貴（そんき）さへ目覚めた大いなる感動を、表す言葉でもある。それがいつしか感謝の意に、転用されるようになったのである。先人のこのような宗教的心情を想う時、日本語の中でも、特にすぐれた美しい言葉であると思う。

延塚知道 大谷大学教授

大谷大学発行『学苑余話』生活の中の
仏教用語より



みつつけた!



カレーハウス・ シェてつお

〒856-0007
長崎県大村市草場町41-13
☎0957-56-9855

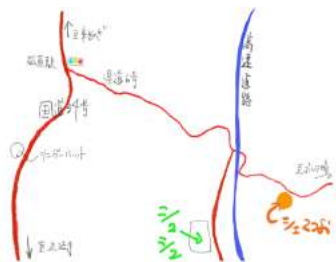
北部の方、お待たせしました!

今回紹介するお店は、野岳にあるカレー屋さんです。日本人に大人気のカレーですが、ご主人のてつおさんは高校の体育教師をされていた頃から大のカレー好き。研究を重ね、さらに野岳の豊かな食材や水を使って自分が満足できる味に仕上げたそうです。コロナ禍で弁当のみのが続いているようなので、まずお問い合わせをお願いします。

(文責/島田)



テイクアウトの場合はこんな感じです。



門徒廟(納骨堂)の「生もの」の

お供えを禁止いたします。

ご協力お願いいたします!



門徒廟(納骨堂)の「生もの」のお供えを、衛生上の理由から今後全て禁止いたします。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。納骨堂においても「南無阿弥陀仏」とお念仏しましょう!

新しい法務員が入りました。

どうぞよろしくお願いいたします!!

はじめまして、木村秀賢と申します。出身は、北海道洞爺湖町のお寺出身です。大学時代は福岡の九州産業大学に行っており、その後、京都の大谷専修学院で2年間学び、お坊さんの資格を取り、こちらの紹介で正法寺さんで働くことになりました。実践としての真宗は初めてなので、これから皆さんと一緒に学んでいけたらと思っています。



しゅうけん

真宗・入門

おふみ
御文を知っていますか？



蓮如上人



御文と箱

原文

(前半)

当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに**疫癘によりてはじめ****て死するにはあらず**。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり。しかれども、いまの時分にあたりて死去するときは、さもありぬべきようにみなひとおもえり。これまことに道理ぞかし。

(後半)

このゆへに阿弥陀如来のおおせられるようは、「末代の凡夫、罪業のわれらたらんもの、つみはいかほどふかくとも、われを一心にたのまん衆生をば、かならずすくうべし」とおおせられたり。(中略)ねてもさめても、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏ともうすは、かようにやすくたすけます、御ありがたさ、御うれしさを、もうす御礼のこころなり。これをすなわち仏恩報謝の念仏とはもうすなり。

解説文

(前半)の部分では、

蓮如上人がご存命の時(一四九二年)に、疫癘(伝染病)で多くの人が亡くなりました。ですが、「そもそも私たちは生まれては必ず死ぬ身であるからそんなに驚く必要はない。」と言われていきます。しかしながら死別する悲しみは当然であるとおっしゃっています。

(後半)の部分では、

そんな悲しみの中の私たちを阿弥陀仏は必ず救うとおっしゃっています。それゆえただひたすらに阿弥陀仏に対して念仏(返事)しましょうとお勧めくださいます。そして南無阿弥陀仏とは、有り難さ、嬉しさ、御礼の言葉であり、仏恩報謝の念仏であると示しておられるのです。

(文責／木村)

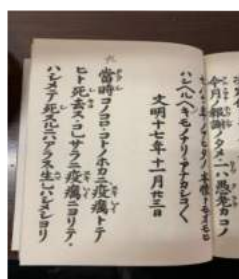
御文は、漢字とカタカナで書かれています

今回の正法寺新聞表紙の言葉は、

「疫癘(えきれい)の御文」

(四帖目第九通)からの引用です。

原文と解釈を、見ていきましょう。





住職が語る『正信偈』第16回



顕示難行陸路苦

信樂易行水道楽

前回から依釈段の龍樹章と呼ばれるところに入っています。龍樹菩薩と呼ばれるインドの高僧のことが語られる段落です。龍樹菩薩は、西暦一五〇〇

二五〇年頃に活躍された方といわれています。たくさんの著書を残され、その教学は広く諸宗の基礎となっていることから、八宗の祖師と讃えられている人物です。八宗とは特定の宗派をあらわすものではなく、あらゆる仏教の宗派ということです。真宗でも浄土教の教えを正しく後世に伝えて下さった七人の高僧の第一祖として尊ばれます。その龍樹菩薩の多くの著作の中で、親鸞聖人が特に大切にされたものが『十住毘婆沙論』という書物です。難解な名の書物だなお思われるでしょうが、「十住」というのは、菩薩の修行の段階を表した言葉である「十地」の異訳です。菩薩の修行の位は、全部で五十二段階があるのですが、その四十一番目から五十番目の位を指します。もうちょっとで悟りをえるところまでたどり着いた状態です。また「毘婆沙」

はヴィバーシャというインドの言葉を音写したもの、つまり発音を漢字で当てはめて翻訳したもので、意味で訳すると「註釈・解説」という言葉になります。ですから菩薩の十地の修行の位（段階）について説かれた經典である『十地経』（『華嚴経』十地章）の注釈書という意味の書物です。

みなさん是不退転という言葉をご存じかと思えます。絶対にあきらめないとかに誓うことを不退転の決意などと言いますね。不退転とはもともと仏教用語で、必ず悟りに達することが決まっている状態、もう迷いの世界に後戻りしない段階まで進んだ状態という意味です。それが前回の最後の方に出てきた「歓喜地」という四十一番目の菩薩の位です。その仏になることが定まっている不退転の位にいたる道について「難行道」と「易行道」という二つの道があると示して下さっているのが『十住毘婆沙論』という書物なのです。そのことを親鸞聖人は『顕示難行陸路苦 信樂易行水道楽』とたたえておられます。現代語訳すると「悟りに至る歩みに、陸路を歩むように辛く険しい道のりと、舟で水路を行くように楽し

く快適な道のりの二つの道があることを龍樹菩薩は示して下さった」という意味です。陸路を歩む険しい道のりである難行道とは、自らの努力を重ね、厳しい修行の末にいくつもの段階を経て不退転の位にいたるあり方のことです。私達が持っている仏道の修行のイメージそのものです。これに対し易行道とは、恭しく敬いの心をもって阿弥陀仏の名号を称えることによって不退転の位にいたる道だと龍樹菩薩は仰っています。

私達は有無の見にとらわれ、あらゆるものに執着して生きる存在です。親鸞聖人もまた二十年間比叡山で修行を重ねながらも、煩惱から離れられない我が身であるということに自覚し、その事に悩み苦しみ山を下りて法然上人のもと念仏の教えに出遇われます。煩惱具足の凡夫である私が救われていく道がここにあったという深い感動のもと念仏の道を歩まれるのです。その時のよろこびを噛みしめながら、私達の歩むべき道を示して下さっている言葉が今回の段落ではないでしょうか。